

ADVENTURERS on SURFACE

表層の 冒険者たち2009

山部泰司 / 工藤礼二郎 / 倉橋利明 / 石井博康 / 芝章文
沼田直英 / 山田ちさと / 丸山数理 / 岸本吉弘 / 佐東恵
詫摩昭人 / 内倉ひとみ / 新山光隆 / 団野雅子 / 大嶋彰
阿部亮平 / 新藤杏子 / 大浦和代 / 大塚麻美 / 山田宴三

ニーチェは、目に見えない奥に、内に、裏に、あるいは彼方に何か真実が、素晴らしい理想が存在するという考え方を「背後世界論」と呼んだ。西洋の哲学思想を長きにわたって支配してきたこうした「背後世界論」と手を切るうとしたのがニーチェであり、その彼が、「表面に、皺に、皮膚に敢然として踏みとどまること」というすばらしい言葉を残している。私が「芸術」とりわけ「絵画」について「表層の冒険」というとき、つねに念頭にあるのはニーチェのこの驚くべき認識である。「深み」へ、「内部」へ、「内面」へ安易に逃げてはならない。「表面に、皺に、皮膚に敢然として踏みとどまること」、それが「表層の冒険」である。「表層の冒険」——一言に易く行うは難し。「表層」そのものをかけがえのない「自我」として引き受けること。それが「画家」というものであろう。

— 谷川渥（表層の冒険者たち—2008展カタログより抜粋）

2009年2月9日（月）～2月21日（土）
12時～7時30分 2月11日（水）日曜・祝日休廊
exhibit Live & Moris Gallery

【表層の冒険者たち—2009】発行：特定非営利活動法人アート農園 URL:<<http://www.art-morion.jp/>>
〒333-0866 埼玉県川口市芝3879 TEL/FAX：048-269-4965

発行日：2009年2月9日 編集室：COAC現代芸術研究所 印刷・製本：マルチメディアデザイン株式会社

山部泰司

YAMABE Yasushi



「風景画」2009年 80.3×130.3cm テンペラ、アクリル

絵画材料や技法は美術史に結びつき、作品と美術史との関連を示唆します。近作の「風景画」は、美術のなかの風景と現実の風景が渾然一体となった私の記憶を発掘する試みでもあり、「風景画」を自然の描写としてではなく、人工的で音楽的なものとして成立させようとししました。一つの原理で「風景画」を成立させるのではなく、多様な原理の共存が「風景画」を生み出すような方法について考えました。

山部泰司/YAMABE YASUSHI

1958年生まれ。1983年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了
2008年「山部泰司展～変容する絵画～」奈良町現代美術館
2009年 山部泰司「風景画」展 LADS GALLERY

工藤礼次郎

KUDO Reijiro



UNTITLED 2007年 個展会場風景 (ギャラリー エンドウ)

心を閉ざした若者の理不尽な犯罪や荒んだ大人の醜い行為を目の当たりにし、日々やるせない気持ちになる。せめて絵画ぐらいは深く詩的に語りかけ、なおかつ畏怖の念を感じさせるような存在でありたいと願うのだが、これは果たして今の社会に於いては的外れな思いなのだろうか…。

1991年 創形美術学校研究科絵画造形課程修了

1996～1997年 パリ国際芸術会館滞在

1992年以後東京を中心に、大阪、パリにて個展。その他グループ展多数

倉橋利明

KURAHASHI Toshiaki



WibbleWobble ; Breathing-1 2008年 51.5×36.5 cm
パネルに赤麻紙、白麻紙、WT紙、墨、アクリル、彩墨水、岩絵の具、水干

絵画『WibbleWobble ; Breathing-1』について。タイトルのWibbleWobbleは英国で2つの単語を連呼して使われる遊び言葉です。しかしWobble (揺らめき) という単語はありますがWibbleという単語は存在しません。作品の中でWibbleWobbleはものの有無を表しています。Breathing (呼吸) とは画面上には明確に形態が描かれていないようで、しかし何かの存在を感じる、何かそこに潜んでいそうな、ものの息遣いを察し、人は抽象化されたものを具象化としてイメージしていきます。それは森でさえずる鳥の声を聞き、姿は確認できなくとも知識という行為によって、そのものをイメージしてしまう事と同様に、観る人は画面を構成していきます。

1984多摩美術大学大学院修了、1985コバヤシ画廊で個展以後モリスギャラリー、ギャラリーなつかなどで個展、その他グループ展 (ニューヨーク、ベルリン、日本など多数)、第16回現代日本美術展、第2回東山魁夷記念日経日本画大賞展、優秀美術作品として文化庁賞上。

石井博康

ISHII Hiroyasu



「浸透圧」2007年 162×261cm キャンバスに油彩

子供の頃、故郷の高梁川の橋の上から、その清流を飽かず眺めた。真下に見える川底の石や水草はゆらゆらと揺らめきながらも、その位置を変えない。しかし膨大な水量は川上から川下へ絶えず移動し続けた。

1977 東京芸術大学油画科修了、現代日本美術展、板橋の現代作家展板橋INSTALLATION〈花〉、いけばなコラボレーション、版概念〈過去・現在・未来を採集刷る版画〉展、C・A・F展、日韓現代美術交流展、Japan/Wisconsin Arts Exchangs (WI,USA) その他個展グループ展多数、現在、東北芸術工科大学教授

芝 章文 SHIBA Akihumi



MAO-3050408 2008年 45.5×53.5cm キャンバスに油彩

絵画『MAO』について

タイトル『MAO』は「真の魚」と書いて空海の幼い頃の名前からきています。絵が未成熟な人間のアウラのようなものとして誕生し、後に空海のように大きく成長してほしいという願いをこめて名付けられました。ゆっくりと「気」が増殖していくように、茫漠とした拡がりが見の前に映し出されていきます。見る人自身が包み込まれるような、また見る人自身の心情が写し返されるような、鏡の絵画として立ち現れてくればと考えています。つねに揺れ動いているような渾沌とした絵画を描きたいと思っています。

1956年、和歌山県生まれ。1980年、多摩美術大学大学院修了
2004年、NPO法人アート農園設立に参加、
主な展覧会に1987年、今日の作家<位相>展（横浜市民ギャラリー）。
1988年、ニュージャパニーズスタイルペインティング<日本画材の可能性>展
1993年、「ヨコハマ現代美術展/横浜の波」（ポートコミッションギャラリー・USA、[サンディエゴ]）。1994年、斉藤記念川口現代美術館開館記念「コレクション」展 1995年、横浜市民ギャラリー30周年記念「第30回今日の作家展<洋上の宇宙>アジア太平洋の現代アート展。その他、コバヤシ画廊、ARIKA ART SITEなどで個展、グループ展多数。

沼田直英 NUMATA Chokuei



「内在平面シリーズ' 08-A」2008年 36.2×96.2cm キャンバスにアクリル



「内在平面シリーズ' 08-B」2008年 36.2×96.2cm キャンバスにアクリル

- 1954年 北海道生まれ
- 1979年 個展 樺画廊（東京）
- 1980年 ホアン・ミロ ドローイング展 ミロ美術展（バルセロナ）
- 個展 時計台ギャラリー（札幌）
- 1984年 コンパレゾン展 グランパレ（パリ）
- 個展 ギャラリーK（東京）`84、`87、`88
- 1985年 ソウル・ノベンパー展 ハンガンギャラリー（ソウル）
- 個展 ときわ画廊（東京）
- 1987年 キアスム`87、`88展 ギャラリーK（東京）
- 犀川国際アートフェスティバル 信州新町美術館他（長野）
- 1989年 火の素粒子展 エクレールプラザ（東京）
- 1990年 個展 ギャラリー古川（東京）
- 1993年 個展 CTIギャラリー（東京）
- 2002年 芝山アート展（成田）
- 2006年 個展 ギャラリーGAN（東京）
- アートプログラム青梅 吉川英治記念館他（東京・青梅）
- 2007年 国際野外の表現2007比企展 東京電気大学他（埼玉）

その他フタバ画廊、など個展、グループ展多数。
2004年特定非営利法人アート農園 設立に参加、理事

山田ちさと YAMADA Chisato



「fragile03」2008年 910×910cm アクリル、顔料 ポリエステル布

半透明のポリエステルやナイロンの布地を支持体として制作している。裏から描いたり表から描いたりして形と余白を入れ替えたり、入れ替えなかったり。ツヤツヤとした光沢やぐもったマットな肌。うっすらと透けて見える何かわからないもの。きらきらして形を感ずる光や影。見慣れた日常に突如乱入してくる調子の外れた色彩の一瞬。思い違いのようなその時の光景。長いような短いような。平面上の化学変化を見たいという欲望で。

多摩美術大学大学院日本画科修了、1987TAMA VIVANT（東京）、1989日本インパクトアートナウ（ソウル）、2006 福島現代美術ヴィエンナーレ、アートプログラム青梅、2007 アートクロッシング（京都）、かねこアートG1、なびす画廊、潺画廊、あ〜とじょいばるば、コバヤシ画廊、アリカアートサイト（東京）、不二画廊（大阪）などで個展、その他グループ展多数、
パブリックコレクション：神奈川県立近代美術館

丸山数理 MARUYAMA Suuri



「私トイウ幻想」2008年 116.7×72.7cm キャンバスにアクリル

人は同じ場所同じ時間にも同じ人間にはなれない。そこに至るまでの経過や記憶が全く異なるのだから。自分が認識している世界を保証するのが自分しかないのなら、自己の存在等希薄なものなのではないのだろうか。みているもの、感じているもの。そんな曖昧さの中で私達は生きている。

1979年生まれ 2007年多摩美術大学大学院美術研究科博士前期課程修了
2008年個展「あー ええっと うん絶対。」
2006年シェル美術賞入選
2008年第7回全国公募西脇市サムホール大賞展入選 その他グループ展多数

岸本吉弘

KISHIMOTO Yoshihiro



「Narai - Hidden Dragon」2007年 218×582cm キャンバスに油彩

ここ近年、ストライプの状の模様に着かれることが多い。この特性を絵に活かさないかと模索するのだから、なかなか思った密度には至らない、ただ苦しい。本当に苦しいと思ったとき、一瞬「第2の扉」が開かれたような気になる。モチーフとして、またある種のシステムとして目的化された「ストライプ」ではなく、それを「梯子」として絵の中、また人間の中に降りていきたい。

1968年☒ 神戸市生まれ、

☒ 武蔵野美術大学大学院修了。東京、大阪、神戸で個展開催。
 ☒ ロンドンにて滞在制作 (01)、兵庫県芸術奨励賞 (03)、
 ☒ 神戸市長田文化賞 (08)

☒ 本年は奈義町現代美術館 (岡山) で個展、
 ☒ 神戸ピエンナーレでグループ展に参加予定。

佐東 恵

SATO Megumi



「そこで見てきたものたち」2008年 20×20cm パネルに油彩

1984年☒ 秋田県生まれ

2009年 ☒ 東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科修士課程修了

詫摩昭人

TAKUMA Akihito

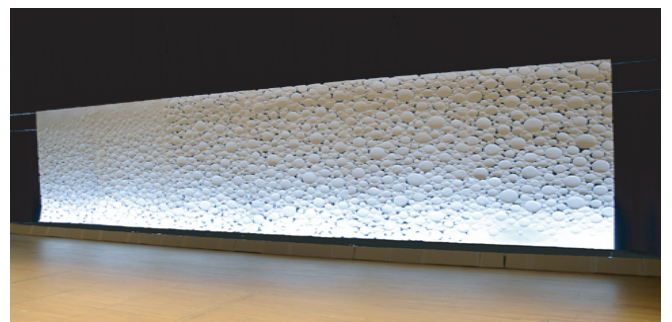


「逃走の線」2008年 160×650cm キャンバスに油彩

1966年☒ ☒ 熊本県生まれ。
 1992年☒ ☒ 滋賀大学大学院美術教育修了。
 1993~1994年 ☒ ☒ 渡欧、シルクロ・デ・ベラスアルテス在籍 (マドリッド)。
 ☒ ☒ 第20回ホルペイン・スカラシップ奨励学生。
 ☒ ☒ 立体ギャラリー射手座、
 ☒ ☒ 信濃橋画廊などで個展19回。グループ展多数、
 ☒ ☒ 震災復興10周年記念国際公募展
 ☒ ☒ 兵庫国際絵画コンペティション優秀賞など。

内倉ひとみ

UCHIKURA Hitomi



Lumiere 2008 670x200cm (114x200cm 6枚組) 紙にエンボス 切り抜き

私たちが光を見つめるときの感覚は 我々ただひとつの共通のものである
 民族 宗教 国家 性別等の「違い」という見えない壁
 光は その見えない壁のずっとずっと地深くにある
 光をみつめることこそが 唯一 互いを理解し信頼し尊重しあう糸口を
 もたらしてくれるはず

内倉ひとみ (造形作家)

1956年、鹿児島県生まれ。

1982年、多摩美術大学大学院修了。

2008年、コンサートインスタレーション

「イザナギあるいはオルフォイス」初演 (小野記念講堂・東京)、

「観海庵落成記念コレクション」まなざしはときをこえて」

ハラミュージアムアーク 群馬。

個展、グループ展多数。

新山光隆

NIIYAMA Mitutaka



交差する視点 2008年 60×84cm アクリル・キャンバス

- 1979年 神奈川県生まれ
- 2001年 拓殖大学工学部工業デザイン科卒業
- 2002年 拓殖大学工学部工学研究科研究生修了
- 2001年 [DAWN OF ASIAN AGE]中和ギャラリー (東京)
- 2002年 個展 小野画廊 (東京)
- [4th Contemporary Young Painters Exhibition From JAPAN]
- Zainul Gallery (バン格拉ディッシュ)
- 個展 小野画廊 (東京)
- 2004年 「ART FIELD出版記念展」あ〜とじよいばるば (東京・大塚)
- 2005年 個展 小野画廊 (東京)
- 2006年 アートプログラム青梅 (古川英治記念館・東京)

その他あ〜とじよいばるばなどでグループ展多数。
2004年特定非営利法人アート農園 設立に参加、理事

団野雅子

DANNO Msako

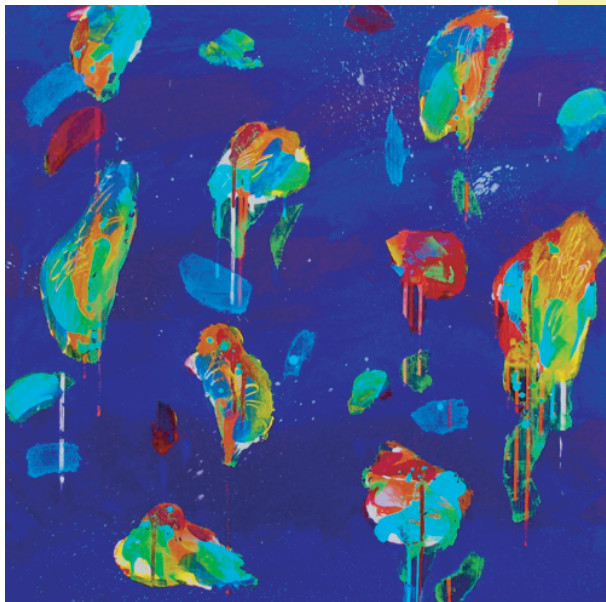


「厳冬輝」2008年 90×30cm 和紙・墨・金粉・顔彩・膠

- 1974 女子美術大学芸術学科卒業、
- 1972-1974 美学校 最終美術工房 (松沢宥) にてコンセプチュアルアートを学ぶ
- 1975-1978 言語による作品個展
- 1996-2008 平面による作品個展
- 2000-2004 ベルリン 個展
- 2002-2006 山梨県立美術館とみんなで作る美術館「みなび」展を企画
- 2002-2005 横浜国立大学非常勤講師
- 2007 山梨県立美術館ギャラリーエコー企画展 グループ展多数

大嶋 彰

OSHIMA Akira



「海へ- 08C」2008年 80,3×80,3 cm カンヴァスにアクリル、油彩、蜜蝋

人間の能力は太古の昔からほとんど変わっていないのに、驚くべき世界の拡大と狭隘化は人々に強い乖離感覚を与えている。個々の身体から出発し、結局は個々の身体に帰着するしかない私たちにあって、身に不釣り合いな難問を日々突きつけられているのである。

今、絵画とは、このような身に不釣り合いな難問に対する数少ない応答の一つではないかと考えている。

- 1951年 新潟県生まれ、1977年 東京芸術大学大学院修了、
- 1993年 文化庁芸術家在外研修員 (ペンシルヴェニア大学大学院客員芸術家)
- 2000年・2003年 「越後妻有アートトリエンナーレ」、
- 2004年 「個展」アートフロントギャラリー (東京) 他、個展、グループ展多数。

阿部亮平

ABE Ryouhei



「i'chi」2008年 162.0×162.0cm 綿布に油彩

キャンパスの上に絵具をのせるところから始まる。
盛り上がった絵具、そこに筆先(指先)で触れてみる。
触れた部分は凹み、それ以外の部分は周囲に広がっていく。
絵具の触感・変化していく画面によって様々なイメージが喚起される。
描く行為を続けるなかで、わき上がるイメージは一つに収斂されていく。

- 1980年 新潟県新津市生まれ
- 2004年 東北芸術工科大学美術科洋画コース 卒業
- 2006年 東北芸術工科大学大学院 修了
- 私立山本学園高等学校 美術非常勤講師
- 2007年 東北芸術工科大学美術科洋画コース 副手
- 2005年 「シエル美術賞展」、代官山ヒルサイドフォーラム (東京)
- 2007年 「VOCA展2007」、上野の森美術館 (東京)

新藤杏子 SHINDO Kyoko



「LIFE」 2009年 194×100cm アクリル板にアクリル絵の具、コラージュ 水彩

私は、生活や、日々の暮らしなど、“人間”についてをテーマにして作品を作っています。
普段生活していると街、今、自分がどこのどんな場所に立っているかわからないような感覚に陥ることがあったり、買い物をしていると何を求めているかが重要なものなのかとどんどん不安になる感覚を持ったりするのです。

その浮遊感、不安感を書き留めたくて作品を作っています。

- 1982年 ☑ 東京生まれ
- 2004年 ☑ 若村祥子・新藤杏子 展 (マキイマサルファインアーツ/新橋)
- ☑ 東京ワンダーウォール2004 入選
- ☑ 新藤杏子 展 (銀座ギャラリーフォレスト/銀座)
- 2005年 ☑ 多摩美術大学 美術学部卒業
- ☑ 同年多摩美術大学 大学院 入学
- ☑ 東京ワンダーウォール2005 入選
- ☑ 溪展 (ギャラリー溪/新宿)
- 2006年 ☑ 東京ワンダーウォール2006 入選
- ☑ シェル美術賞2006 入選
- ☑ 2007年 FOURSIGHT (アリアアートサイト/日本橋)
- ☑ 多摩美術大学 大学院 卒業
- ☑ 東京ワンダーウォール2007 入選
- ☑ NOBORDER展 (ギャラリーいしだ/日本橋)
- 2008年 ☑ 東京ワンダーウォール 2008 入選
- 2009年 ☑ AUDIENCE 展 (ZAIM/横浜)

大浦和代 OOURA Kazuyo



「トマトスバグゲッティ」2007年 180×450cm ブラダンボールにアクリル

食べ物のある場所は、他者とのコミュニケーションの場になります。また食べ物は、食材やメニューなどにより文化を表します。しかし日常では、そういった事を意識しながら食事をしている人は少ないと思います。若者から50代60代に定着した洋食文化。最近では一日に所謂「和食」を、一度も食べない人がいるのも普通です。そして食事形態も核家族化や晩婚化また単身赴任などにより、独りでの食事になっている人も多はずです。これらの食事形態は、すでに現代の Japanese food と言えるのではないのでしょうか。

『personal なモノを通して「観る」 public 』これをコンセプトに、「ある食事」の例として「私の食卓」をモチーフに作品を作ります。

- 作家プロフィール
大浦 和代 Kazuyo Ooura
1980 札幌市生まれ
2000 東北芸術工科大学 芸術学部 美術科洋画コース入学
2004 東北芸術工科大学 芸術学部 美術科洋画コース版画専攻卒業
2007 東北芸術工科大学 洋画コース副手。山形市在住。

大塚麻美 OOTUKA Asami



「世界のうらがわ」2009年 160.0×90.5cm パネル/紙・アクリル・ペン

- 1984 茨城県生まれ
- 2009 東北芸術工科大学大学院 芸術工学研究科修士課程修了

ものごとのすべてに「おもて」と「うら」が存在していて、わたしはその二面性に惑わされながらもその存在にドキドキしながら、毎日を生きています。

山田宴三 YAMADA Enzo



「鏡の中の外」2009年 S30号 和紙に胡粉、アクリル

- 1957 ☑ 静岡県生まれ
- 1987 多摩美術大学大学院美術研究科修了

- 個展
- 1987 ぬこ・アートG1 (東京)
 - 2006 満ちる時間展監 (東京)
 - 2007 ㊦リカ・アート・サイト(東京)
 - ☑ 日本橋高島屋X画廊(東京)
 - ☑ 不二画廊(大阪)
 - 2008 ☑ 不二画廊 (大阪)
 - ☑ その他個展グループ展

「表層の冒険」・・・言うに易く行うは難し。
 「表層」そのものをかけがえのない「自我」
 として引き受けること。それが「画家」という
 ものであろう。
 表層の冒険者たち・・・出でよ！



谷川渥 TANIGAWA Atsushi

東京大学大学院博士課程修了。現在、國學院大学文学部教授。専攻美学芸術学。著書に、『形象と時間』、『美学の逆説』、『鏡と皮膚』、『文学の皮膚』、『廃墟の美学』、『図説だまし絵』、『美のパロキスム』等。懸案の書物『シュルレアリスムのアメリカ』を近々みず書房より刊行予定。

— 谷川渥（表層の冒険者たち—2008展カタログより抜粋）

ADVENTURERS on SURFACE [表層の冒険者たち —2008] 開催によせて

NPO 法人アート農園が主催する MASC 都市芸術実際会議の勉強会も、はや7年を経過した、毎月1回の継続的な集まりは、様々な紆余曲折はあったものの、参加してきたひとりひとりにとってはそれなりの大きな成果をもたらしてきたように思う。

この度、絵画の周縁を研究し、その方途を模索するなかから、絵画に焦点を充てた展覧会を企画した。しかしながらこの企画はなんらかのイズムやエコールを標榜するものではない。制作を続けるという日常と非日常のなかで、淡々と描き続けられてきた営為を、個々の絵画活動の一端を紹介するものである。

絵画の終焉がささやかれて久しい今日、絵画について考えてみると、眼の快楽を超越し、抽象や具象といった

歴史的対立概念からも逃れ、言説喚起力を携えた絵画表現が数多く見受けられる。自由奔放な絵画表現が現れてきているのだ。元来、日本の絵には抽象など無かった。写実も無かった。あったのは愛でる自然を背景とした叙情的表現なのである。絵図から絵画に移行し、描くこと、視ることの原点に立ちかえり、本来あるべき絵のすがたを想起してみよう。

「表層の冒険者たち」と名付けられたこの展覧会に出品された作品群は紛れもなく現在の日本の絵画である。画家として生まれ、画家として生き、画家として死んでゆく。そんな個々の分身としての作品が放つエスプリに触れて頂きたい。

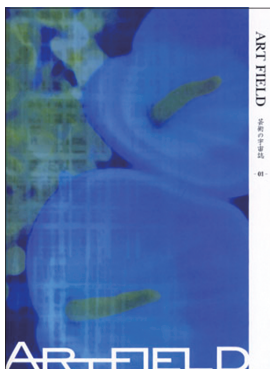
United Art Plantation Representative
 特定非営利活動法人アート農園

NPO 法人アート農園

美術雑誌「ART FIELD」バックナンバー

■ 購入方法：ホームページにてお問い合わせください。 <http://www.art-nouen.jp/artfield.html>

United Art Plantation Representative
 特定非営利活動法人アート農園



◀ 芸術の宇宙誌 — 01 —

定価：1000円 [本体価格952円+税] (在庫少)

互助会制から後援会制へ … 松永 康
 当世美術館事情 … 谷 新
 MASC公開講座 … 芝 章文
 グランド・ゼロと建築 … 飯島洋一
 廃墟の表象史 … 谷川 渥



◀ 芸術の宇宙誌 — 02 —

定価：700円 [本体価格667円+税]

[特集] 映像というメディア
 明滅運動と映像表現 … 萩原朔美
 映画と絵画 … 谷川 渥

▶ 芸術の宇宙誌 — 03 —

定価：700円 [本体価格667円+税]

[特集] 身体論
 座談会 — 身体の表われを読む
 常心門少林流空手道宗師範池田泰秀氏に聞く
 … 谷川渥、萩原朔美、芝章文、大橋紀生
 A Second Skin—現代美術における「もうひとつの皮膚」… 渡邊昇一
 芸術と医学の蜜月—レオノール・フィンの場合… 小池寿子
 ボディ・スケールについて… 中山正樹
 さりげなきについて—ルネサンスの優美論に
 現われるダンスへの問い… 木村 寛
 肉体論の水準を知る—「肉体作品」、「デモンと迷宮」… 谷川 渥



▶ 芸術の宇宙誌 — 04 —

定価：700円 [本体価格667円+税]

[特集] 戦後日本美術60年 1945-2005
 1970年 — 大阪万博とインターメディアの空白 … 葛沢剛巳
 「物語」をこえること … 千葉成夫
 回想のなかの1960年代的美術 … 早見 堯
 戦後日本美術の自主的な文脈 … 中村英樹
 戦後アヴァンギャルド芸術私観 … 針生一郎



アート農園
 NPO United Art Plantation
 会員募集

アート農園では新規会員を募集中です。アート農園の目的に賛同された方、興味をもたれた方は活動に参加してみませんか？
 会員の種類と、現在の会費はそれぞれ下記のとおりです。

1. 個人会員、この法人の目的に賛同し、入会した個人。・・・年間一万円
2. 学生会員、この法人の目的に賛同し、入会した学生。・・・年間五千円
3. 賛助会員、この法人の事業を賛助する会員。・・・個人：一口千円、一口以上 法人：一口一万円、一口以上

入会を希望される方は、まずはホームページからメールにてご連絡ください。追って事務局の方からご連絡を差し上げます。
 また、お問い合わせ等もお待ちしております。 <http://www.art-nouen.jp/>

ADVENTURERS on SURFACE

